

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている				
	やや良く なっている	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・ガソリン価格が低下した8月末以降若干ながら消費が良くなっている。少数ではあるが高額品も動いている。好調に動いているのは低額商品であるが、客の購買意欲は高まっている。	
		スナック（経営者）	単価の動き	・来客数はさほど伸びていないが、客単価が上昇し売上の増加に貢献している。	
		ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・ツアー客が増え、客単価も上がっている。会社のコンペも徐々に回復している。	
	変わらない		商店街（代表者）	来客数の動き	・近隣のスーパー、デパートの広告がよく入っている。このような状況のなか、商店街に客を引き込むのは難しい。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が減っており、消費が冷え込んでいる。
			商店街（代表者）	お客様の様子	・中心商店街の客は高齢者が多く、収入減・医療費問題・食品安全における不安感が募っており、厳しい。
			一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・来客数が減っている。魚の価格は上がっていないにもかかわらず売れない。
			百貨店（売場主任）	単価の動き	・来客数は前年と変わらないが、売上は前年を下回っている。客は本当に必要な物しか購入しない。
			百貨店（企画）	お客様の様子	・来客数は減少しているが、買上客数は前年を維持しており、客の買上率が向上している。客の平均滞留時間は短くなっており、目的買いの傾向が強くなっている。また、平均商品単価、平均客単価共に下降しており、消費の傾向が生活防衛型になっている。
			スーパー（店長）	販売量の動き	・買上点数が伸び悩んでいる。客の様子を見ても、買物に慎重になっている客が増えている。
			スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数は前年の101%で推移しているが、客単価、買上点数が落ちている。食品の値上げによる客の買い控えが顕著となっている。正肉の動きは良いが、野菜は相場安で厳しい。
			スーパー（店長）	単価の動き	・客単価が前年比98～99%くらいで推移している。買上点数が前年より1点ほど減少している。
			スーパー（店長）	販売量の動き	・値上げ傾向で商品単価が前年比3%上昇し、客単価も前年比2%増となった。しかし買上点数が減少しており、来客数も減少している。食料品・非食料品共に同様の傾向だが、家計消費優先で動いている。
			コンビニ（経営者）	お客様の様子	・タスポ導入の影響により、たばこの売上は前年に比べて依然伸びている。しかしたばこの購入のみで、ついで買いがない。必要な物だけを購入する傾向は、依然続いている。
			コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・タスポ導入の影響で消費が上向きかけていたが、その効果もなくなり、衝動買いも少なくなった。目的以外の消費が全くない。
			衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・思ったより涼しくなり、予想より早く秋物が動き始めた。しかし秋物衣料がまだそろっていないため、中盤以降は動きがない。客単価は依然シビアで、買上点数も控えめである。
			乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・販売量が伸び悩んでいる。
			住関連専門店（経営者）	単価の動き	・秋口に入りプライダル家具の動きが少しはあるが、下見段階で決定までいかないことが多い。相変わらず来客数は少なく客単価も低い。
			その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は前月に比べ値下げとなった。8月の購入を控え、9月の月初に購入する客が多い。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・販売量、売上共に低めに推移している。	
		観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・建設業を始め漁業関係の動きが鈍く、利用者が少ない。	
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・ターミナル駅隣接店舗の来客数が増えている。通勤途中での申込が増えている。団体の動きが悪い。		

	タクシー運転手	来客数の動き	・国体が始まっているが、予約状況が大変悪く、客の動きも鈍い。
	タクシー運転手	お客様の様子	・なるべくバスを利用するという人が多い。天気も良いため、タクシーの利用が少ない。
	ゴルフ場（支配人）	単価の動き	・客はサービスの質より価格に敏感になっており、客単価は低下している。
	競馬場（職員）	単価の動き	・来場者数は横ばいであるが、客単価の微減が続いている。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・売上の仲介の問い合わせ数が、前月、前々月と変わらない。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅展示場来場者数が伸びていない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・食料ショッピングセンターには人が集まっているが、ファッション関係の店のそばには人通りが少なくなっている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街の来街者が極端に少なくなっているのに加え、販売単価も落ちている。個人消費が大変冷え込んでいる。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・小麦粉から車までいろいろな物が値上がりし、それにより商店街でも買い控えの傾向にある。
	一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・果物関係の動きがかなり鈍くなっている。盛り数を少なくして価格を下げると購入につながる。客単価が低下している。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・住宅地に位置しているが人通りも少なく、原材料の仕入単価の値上げにより売上が減少している。例年、初盆の返礼品の注文が多少あったが、今年は無いに等しい状況である。ここ数か月、売上は前年比減が続いている。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数は前年を大きく下回っている。レジ客数は来客数の落ち込みほどの減少はなく、買上単価は前年をやや下回る状況である。目的を持って来店して必要な物のみを購入する傾向は一段と強まっている。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・台風の影響もなく、気温も低下傾向にあり、本来なら秋物需要が盛り上がるころだが、相変わらず衣料品を中心に動きが鈍い。来客数も前年比5%から10%程度減少する日が続いている。
	百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・市内の大型店は平均で前年比97%程度で推移しており、前年実績を超える大型店はない。特に下旬に向かい厳しさが増してきている。今月末、大型店がプレオープンするのでかなり来客数が減る。特にミセス衣料の動きが鈍く、食品についても若干下降気味である。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・夏物のセールが終わり、秋物商材を通常の価格で購入しようという客が減っている。
	百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・前年実績を下回って推移している。前半の秋物商材のスタートは良かったものの、中盤からの残暑や、土、日の日数減の影響が大きく、全体的には低迷する結果となった。事故米や食品偽装などの問題、物価の上昇等の影響で消費が低迷している。
	百貨店（営業推進担当）	来客数の動き	・来客数が前年比85%と大きく落ち込んだ。
	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・客の購買意欲の改善がみられず、日を追うごとに悪くなっている。接客中の話題はガソリン代を始め、高齢者の医療制度等、購入できない理由を話す客が目立つ。
	スーパー（経営者）	単価の動き	・景気の後退や食に対する不安感が募り、買い控え傾向にある。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・原材料の値上がりを販売価格に転嫁した商品は、販売量が大きく低下している。値ごろ感のない商品の売行きは厳しい。
スーパー（店長）	お客様の様子	・価格に対して非常にシビアになっている。特に衣料は夏物衣料最終セールをするが、中途半端なプライスでは売れない。1,000円以下あるいは500円以下でないと売れなくなっている。また買上点数も減っている。食品はメニュー提案する商材については動きが出ているが、少しでも安い商品へ向かっている。また広告で競合店と購入商品の比較をし、より安い店で購入する傾向が強まっている。	

	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・ガソリン高騰により郊外ショッピングセンターの客が若干減少傾向にある。また、消費者の買い控え傾向も続いている。
	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・前年より雨が長く、気温も低めに推移したため、前年好調であったビール類・アイスクリーム・つゆ・季節日用品等の動きが悪い。事故米の影響による菓子・酒類の落ち込みや値上げによる買い控えにより、買上点数や来客数の減少が大きい。
	スーパー（経理担当）	単価の動き	・値上げ等により商品単価が若干上昇している。それを上回って販売数量が減少し、客単価は下降傾向にある。来客数も減少している。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・売上を伸ばしていたたばこの売上が下がっている。主力のパン、カウンター周りのファストフードや総菜の原材料高騰による値上げで総売上は前年並みである。
	コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店の売上は前年比108.5%、コンビニエンスストアは前年比87.5%、ローカルスーパーは前年比107.5%となっている。パンの販売量が増えている。
	コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・タスポ導入の影響で売上は前年を超えているが、9月に入りたばこの動きは鈍化傾向である。
	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・ブライダルや式服を購入する客は増えているが、通勤服を購入する客は減っている。
	家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・北京オリンピックが終わり猛暑も一段落したため、消費をけん引する商品がない。
	乗用車販売店（管理担当）	お客様の様子	・業者間の車の卸売価格が下がっている。また、客の買い控えがまだまだ続く。
	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・客の様子をみると、ついで買いがあまりなく目的買いが多くなっている。
	その他飲食〔居酒屋〕（店長）	来客数の動き	・来客数が少なく、開店休業のような月であった。
	観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・すべての部署で前年実績を大きく下回った。特に一般宴会の問い合わせ等がお盆を境に急速に減少している。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・国体開会という特需は一定の効果があるが、国体終了後はホテル間競争の激化は必至である。一方、個人消費の手控えはレストラン・宴会等に影響が出ている。
	都市型ホテル（副支配人）	競争相手の様子	・単価を落とすと客の確保ができる。周辺のホテルでも土曜日に空き室が出ており、非常に悪くなっている。
	通信会社（管理担当）	単価の動き	・1件当たりの受注単価が下がっている。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・競合他社も含め、販売量が落ち込んでいる。
	通信会社（業務担当）	販売量の動き	・法人大口需要の販売があるものの、高価格商品ということもあり一般消費者の新規契約・機種変更が非常に少ない。販売台数の落ち込みが顕著である。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・個人、団体客共に予約が伸びない。ゴルフ客の動向は横ばいである。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・観光施設は大河ドラマの効果から好調に推移しているものの、ゴルフ場は諸物価の高騰等により個人消費が引き締め傾向にあるため厳しい。
悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・食料品の値上げに伴い、衣料品等の動きが鈍い。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・商店街にある大型百貨店が閉店するため、大きな影響を受けている。
	百貨店（営業担当）	単価の動き	・不要不急な物は買わず、必要な物でも安い商品を購入する動きが強い。
	百貨店（営業担当）	それ以外	・中心街の代表的商店街の空き店舗数が18店舗となり、店舗率が28%となった。市内の商店街でもトップの空き店舗率となっている。
	百貨店（営業担当）	単価の動き	・まとめ買いが減少している。また、先物を購入するのではなく、必要で安価な物を選んでいる傾向が強い。
	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・販売量が減っている。

	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・食料品の値上げ等があり、ますます購買意欲を低下させている。	
	衣料品専門店 (総務担当)	販売量の動き	・男性衣料品が前年比5%減、ミセスが同3%減、ヤング物も同2%減であり、特にブランド衣料、バッグの売上が大幅に落ち込んでいる。パーゲン品の動きはほぼ横ばいである。	
	衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・毎年9月は売上が落ちる月ではあるが、それにしては客の財布は固くなっている。	
	衣料品専門店	お客様の様子	・最近の客の様子を見ると買う気がないような様子である。	
	家電量販店 (店長)	販売量の動き	・来客数、単価共に前年を大きく下回っている。	
	家電量販店 (店員)	販売量の動き	・販売量が落ち込んでいる。オリンピック後もテレビの動きは良いが、OA商品の動きが悪くなっている。	
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・決算時期にもかかわらず、販売台数が全く伸びない。	
	その他専門店 [書籍] (店長)	販売量の動き	・食料品や日用品の値上がりがますます家計を苦しめており、書籍を買う客が減少している。	
	ドラッグストア (部長)	販売量の動き	・来客数が大幅に減少している。	
	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・全く人が動いていない。こんなに悪いのは11年ぶりくらいである。	
	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・予約状況が伸びず、暇な週が月に1週間は必ずある。	
	一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・来客数がかかり減った。	
	都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・繁華街の客足の低迷に伴い、当ホテルにおいても客の動きが鈍い。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・夜のタクシー利用が少なく、人の動きが全体的に悪い。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・病院通いのお年寄りが減っており、タクシー利用客も減っている。	
	通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・携帯電話機の料金が若干上がり、買い替える周期が長くなっている。客の無駄遣いはしないという姿勢が見受けられる。	
	競輪場 (職員)	販売量の動き	・入場者数の減少率を上回って販売量が減少している。	
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	-	-	
	変わらない	農林水産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・スーパー関連の一般食品は値上げの影響で若干消費が落ち込んでいる。居酒屋関連向けや加工食品向けの納品は相変わらず順調で欠品状態である。
		食料品製造業 (経営者)	競争相手の様子	・受注が増加する時期であるが、業界全体では伸び悩んでいる。原油価格は落ち着いているが、原材料・包材は依然値上げしており、原価圧迫する。
		窯業・土石製品製造業 (取締役)	競争相手の様子	・燃料、資材、ガソリン価格の高騰が落ち着いており、少し元に戻りつつある。
		通信業	受注価格や販売価格の動き	・建設工事不況と入札制度変更のため、一部の通信関連工事以外は電気、通信共に価格競争が激しく、利益の確保が難しくなっている。
	やや悪くなっている	農林水産業 (従業者)	受注価格や販売価格の動き	・受注価格はある程度維持できているが、飼料価格の高騰が負担となっている。
		一般機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・今まで堅調だった既存の取引先の自動車関連設備用部品の受注量が減っている。
		電気機械器具製造業 (経営者)	取引先の様子	・半導体関連の動きが悪く、先行きは全く不透明である。案件があってもなかなか詳細が決定せず、受注につながりにくい。
		電気機械器具製造業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・半導体の動きも非常に厳しくなっており、受注量が極端に減っている。競争が激しくなり、受注価格が低下し、大変厳しい状況が続いている。
	建設業 (総務担当)	競争相手の様子	・以前下請であった業者が数件倒産しており、厳しい状況である。	
	輸送業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・物が動かない状態が続いている。問屋等は直送を増やし、経費を抑えている。	

	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・化学工業品等の動きが非常に悪い。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・原材料価格高騰の価格転換が進まず、収益を圧迫している。金融機関の与信判断も厳しくなっている。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小運送業を中心にガソリン価格の高止まりに加え、受注量も減少傾向にあるため、赤字傾向が続いている。赤字補てんのための運転資金の申込が増えている。
	その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・本来であれば中間期の決算月であるため、契約が増加する月であるが、取引先の業績の悪化、設備投資意欲の大幅な減退により3か月前より受注が更に悪化している。
悪くなっている	繊維工業（営業担当）	それ以外	・安い物しか売れない傾向が強まっている。先行きが見えず倒産する企業も増える。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・販売量が前年比90%程度になっている。買い控えの心理が一般消費財以外の物件においても働いている。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・デパート、量販店、店舗の閉鎖等があり、受注量が減少している。
	金融業	取引先の様子	・倒産件数が増加している。中小の建設業と小売業は厳しい経営状況におかれている。銀行の審査も厳しくなっている。
	金融業（営業職渉外係）	それ以外	・海外の大手証券会社や銀行の破たん等が相次いでおり、国内にも影響を受けている企業が多く、金融機関の不良債権が急増している。消費も低迷しており、百貨店を中心とした業績の下方修正が相次いでおり、景気は一層悪くなっている。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・建設業関連の業種が多い地域であるが、この時期になっても発注量が前年に比べてかなり少ない。各取引先は資金繰りに苦戦しており、厳しい状況が続いている。
	不動産業	単価の動き	・不動産賃貸契約の際に、連帯保証人不要家賃保証システムを行っていた大手企業が倒産した。
	経営コンサルタント	取引先の様子	・原料価格高騰で値上げを余儀なくされていた焼酎業界であるが、事故米問題で一挙に売上が落ち始めた。
	その他サービス業	取引先の様子	・国から市町村への建設関係、福祉関係等の補助金の削減により、市町村の調査や企画作成の予算が従来の半額等となっており、受注しても利益が出ない状況になっている。
雇用関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	-	-
変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・ガソリン価格は多少下がってきたが、食の安全に対する不安が依然として大きく、企業はまだまだ人件費を増やす状況ではない。ただし、今からの時期は新入社員が入るまでの短期雇用が多少は見込める。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・社員よりパート・アルバイトの求人が増えた。売上が低迷するなか、あるレジャー施設では売上増のために社員を削減し、アルバイトを雇用している。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・建築業界の求人が相当冷え込んでいる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・求人広告の枚数、サイズ共に減少している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・大型施設のオープンにより新規求人数が200人近くあったにもかかわらず、前年比15%減となっている。
	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・事務派遣において契約満了時に、後任不要の案件が増加している。派遣社員が従事していた仕事を社員が行う企業や本社の事務センターなどで行なう企業が出てきた。新規派遣依頼も減少しており、業務量自体が減少している。
	学校〔大学〕（就職担当者）	求人数の動き	・求人数が大幅に減少しており、前年と比べて半分以下である。例年のような秋採用に向けての活発な求人の動きはみられず、採用側の求人意欲の減退が顕著である。
悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・製造業、飲食店、卸売業の求人は前月比、前年比共に減少している。

	民間職業紹介機 関（支店長）	求人数の動き	・ 9月末での契約終了や更新不要、後任人材不要が例 年になく多い。一方で新規需要もほとんど無い状況で ある。
--	-------------------	--------	--